

【連続シンポジウム】「東京の住宅地」の現在と未来

第2回：人口減少期の住宅地の現状と住民主体の取組み

11年ぶりの新版「東京の住宅地 第四版」の執筆者らとともに、人口減少期・東京圏の住宅地における現在と未来を考える連続シンポジウムを開催する。

第2回は、第四版のメインパートで、同時代の課題に直面する地域毎の実態や取組みに関する事例を収録した第Ⅲ部「研究・実践事例」のうち、「人口減少期の住宅地の現状」から1題、「住民による主体的な取組み」から2題、執筆者に報告していただく。いずれも郊外住宅地の事例で、空洞化が一貫して進む団地、住民主体でコミュニティマネジメントに取り組む団地、住民主体で緑豊かな環境の管理に取り組む住宅地といった特徴をもつ。こうした事例を踏まえながら、東京の郊外住宅地を持続可能とするための視点や方策について考えたい。

日 時：2014年11月21日（金）14:00～17:00

会 場：建築会館会議室（東京都港区芝5-26-20）

主 催：日本建築学会 関東支部 住宅問題専門研究委員会

〈プログラム〉

趣旨説明：後藤智香子（主査／東京大学）

主題解説：1. 「郊外住宅地の実情と将来予測・天川団地の事例」

中村美和子（エコロジー・アーキスケープ）

2. 「こぶし団地の半世紀：労働組合がつくった住宅団地」

森田芳朗（東京工芸大学）

3. 「緑道と4つのコモン広場が結ぶコミュニティ：オーナーズコート守谷での事例」

深井祐紘（東京大学）

討 議：司会・梅本舞子（千葉大学）

参加費：会員 500円、学生 無料、一般 1000円（当日会場払い）

（資料代別「東京の住宅地 第四版」頒布価格1500円）

定 員：40名（申込み先着順）

申込み：[こちらの申し込みフォーム](#)からお申し込みください

日本建築学会 関東支部 E-mail:kanto@aij.or.jp TEL03-3456-2050

■今後のシンポジウムの予定

第3回：2015年 3月 3日（火）14:00-17:00 地域・多世代・学生の交流連携の多様な取組み